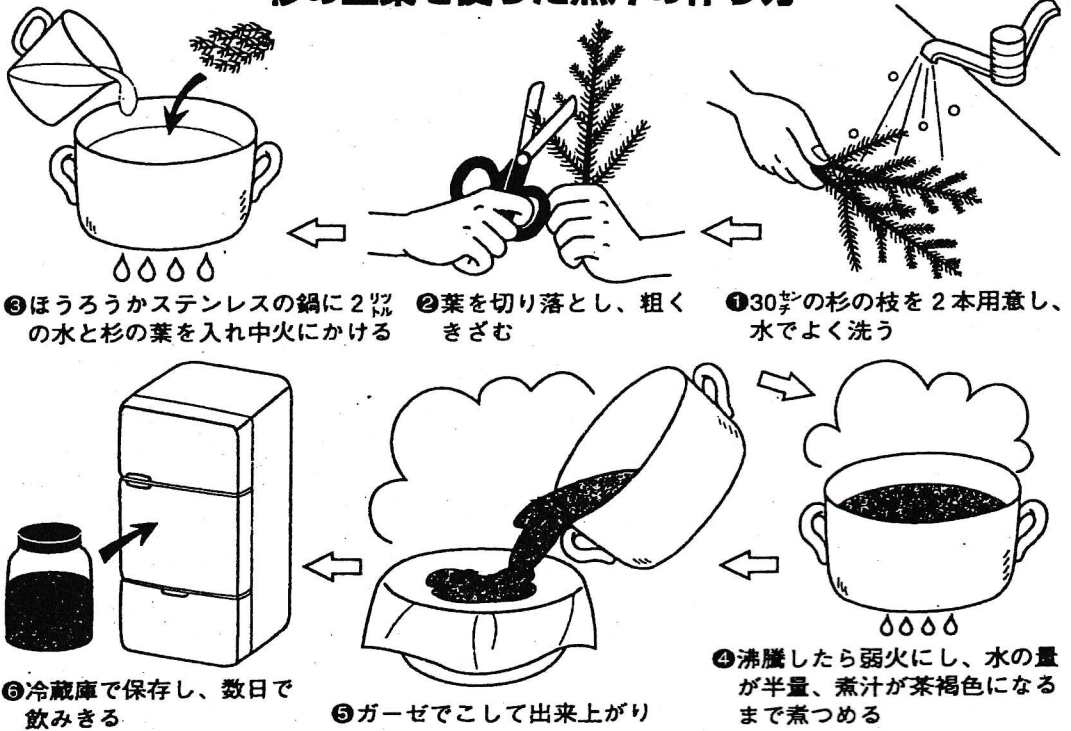


杉の生葉を使った煮汁の作り方



をすすめてみました。すると何人もの人から、「鼻水やくしゃみが止まった」「涙目や目のかゆみがおさまった」など、花粉症特有の症状が軽くなったという声が届いたそうです。なかには、飲んだその日のうちに改善したという人もいました。こうした体験を元に生まれたのが、杉の葉の煮汁です。

杉は古くから民間療法に使われる

杉は、いまでもこそ花粉症の元凶のようにいわれています。昔から私たちが身近に親しんできた樹木です。古い神社の境内にはたいがい大きな杉の木があり、昔は靈魂の宿る木と信じられていました。

もともと杉には、体によい働きがあり、民間療法として長い歴史を持つている、と話すのは、徳島大学薬学部・薬学博士の村上光太郎先生です。

「杉の葉の煮汁の効用は、六五九年に書かれた中国の薬物書に

すでに載っていますし、花粉症への効果は、『本草綱目』（中国の明代に書かれた薬物書）にも記されています。日本各地にも、杉を使った民間療法がいろいろ伝承されています。また、漢方薬にも、『杉木節湯』という処方がありますから、杉の効用は一般に広く認められていたのではないのでしょうか」

漢方薬の『杉木節湯』は、杉の木の節の部分をつめて作った煮汁で、外用すれば神経痛やリウマチに、飲めば吐き下しに効くといわれています。節だけでなく、杉の葉の煮汁にも消炎作用があると、文献に記されています。

それにしても驚かされるのは、杉の葉の煮汁の効果です。花粉症はもとより、長年苦しんできたアトピー性皮膚炎に著効があった例や、肌が白くきれいになったという人もいます。

なぜ杉の葉の煮汁に、こうした効用があるのでしょうか。漢方治療に詳しい医学博士の山